

があります。

■女性のヒステリーに

MODALITY

➤ 抱っこ、暖かい湿った気候、車に乗せること、発汗、冷湿布など

◀ 暑さ、暖かい食べ物と飲物、コーヒー、触られること、怒り、風、月経、夜9時など

RELATIONS

- ・ Incompatible : Sulphur
- ・ Antidotes : Camphora, Nux vomica, Pulsatilla
- ・ It is Antidoted by : Aconite, Alumina, Borax, Camphora, Cocc, Coffea, Coloc, Ignatia, Nux vomica, Pulsatilla
- ・ Complementary : Belladonna

注1) 子供によく使うレメディのABC

Aconite, Belladonna, Chamomilla

注2) Chamomillaには、クマリン類（カルボニル基をもつ物質）とポリエン誘導体（炭化水素の炭素鎖中に三重結合を含む分子をもつ物質）が、植物の成分の中に含まれてい

ます。

このカルボニル基をもつ物質と、ポリエン誘導体をもつ物質の組み合わせを含有する植物を原料としてつくったレメディは、痙攣発作に対して効果が認められます。

Chamomillaのほか、Cicuta virosaやOenanthe crocata, Artemisia vulgarisなどがあります。

また、カルボニル基をもつ原料からつくられたレメディは、ブルーピングにおいて、すべて筋肉（平滑筋、横紋筋）の攣縮が認められています。Ambra grisea, Anamirta cocculus, Artemisia cina, Ipecacuanha, Gambogia, Castoreum, Cimicifuga, Crocus sativus, Ignatia, Moschus moschiferus, Nux vomica, Oenanthe crocata, Valeriana officinalisなどがあります。

そして、そのうちの多くには、ヒステリーや行動の変化、精神状態の変化などに適用されるものが多く含まれています（Ignatia, Ambra grisea, Castoreum, Cimicifuga, Moschusなど）。

ポリエン誘導体を原料に含むレメディには、2つのタイプがあります。

1つは、痙攣作用や筋攣縮に適用するもの：Aethusa cynapium, Artemisia vulgaris, Chamomilla matricaria, Cicuta virosa, Conium maculatum, Grindelia robusta, Oenanthe crocataなど

もう1つは、炎症や出血に適用するもの：Arnica montana, Bellis perennis, Chamomilla matricaria, Echinacea angustifolia, Erigeron canadensisなど。

Chelidonium majus グレーターセランディン [肝臓、胆嚢]

Chelidonium majus L.

BACK GROUND

Chelidoniumは、ヨーロッパ、北アフリカ、アジア原産で、高さ30～80cmになるケシ科クサノオウ属の2年草植物です。低山地の日向の草地などに見られます。葉は互生して、羽状に分裂しています。茎は中空で、葉や茎には縮れた毛が生えています。5～7月の開花期には、花弁4枚の黄色い綺麗な花を咲かせます。一般的にはwartweed, Greater celandine, swallow wortと呼ばれています。

Chelidoniumの名は、ギリシア語のkheledon（ツバメ）に由来します。ツバメが子の目を開かせるために、この植物を巣に運ぶと信じられていたことから来ています。

またもう1つ、ラテン語のcoeli 天国, donum 贈り物に由来するとの説があります。これは、錬金術師が金をつくるために、この植物の汁を必需品として利用



(A)

したことに由来するようです。彼らは、太陽と月の位置が特定の場所に来たときにだけ、この植物を天国からの贈り物として採取していた記録が残されています。

種小名の majus は、より大きいという意味です。この植物は英語で Greater celandine と呼ばれていますが、Lesser celandine と呼ばれている Ranunculus ficaria と区別するために命名されました。日本では、瘡の王（瘡（くさ）とは丹毒（たんどく）のこと）、または草の黄と呼ばれています。

この植物は、古代ギリシア、ローマの頃から薬草として用いられていました。漢方薬としては、開花期に採取して日干し乾燥させたものを、白屈菜と呼んでいます。かつては、皮膚病や痛み止めとして使用されていました。

毒草であり、中枢神経抑制作用のあるチェリドニンが含まれ、ベルベリン、サンギナリン、コプチジン、キレリスリンなども含んでいます。これらのアルカロイドの濃度は、秋にもっとも高くなります。メディカルハーブとしての薬効には、各種眼病、肝臓・胆嚢の機能障害、腎臓疾患、利尿剤、リウマチ、痛風、アレルギー疾患、皮膚病、解毒剤、鎮痛剤など多くの効果があります。外用薬としていぼの治療に使われます。

この植物の汁は黄色い色をしており、それが肝臓の色や胆汁の色を表しているとされています。Opium と同じように、Chelidonium にも神経を麻痺させる作用があります。

MATERIAL

初夏の開花期の植物

FIRST PROVING

ハーネマン（『Materia Medica Pura』第4巻）

MIND

Chelidonium タイプは、知的というよりは、実践的でエネルギーがあり、自分の感情を分析するようなことは、時間の無駄と考える現実主義者です。熱い飲物とチーズを渴望します。熱い飲物を飲むと体が楽になります。

AFFINITY

Chelidonium は、主に肝臓、右側（門脈、腹部、肺右葉、卵巣、骨、足腰など）、粘膜、腸、腎臓、後頭部、膝などに作用します。

CLINICAL APPLICATIONS

このレメディは、肝臓、胆嚢、肺のレメディとして

非常に重要です。右側優勢です。

胆肝疾患

- ・胆汁うっ滞性黄疸
- ・胆汁うっ滞を伴うウイルス性肝炎
- ・肝痛
- ・高コレステロール血症のある胆管結石

肺

- ・黄疸を伴う肺疾患
- ・午後4時に悪化する喘息（喉にホコリが入った感じがする）
- ・右の肩甲骨下が絶えず痛みます。その痛みは午前4～9時まで悪化します。舌は黄色くなっています。下痢と便秘が交互にきます。
- ・天候の変化で起こる喘息、喘息が横になると楽になります。
- ・視神経と眼筋の麻痺、斜視、白内障、光に敏感、右側のレメディ

MODALITY

- ▶ 温かい牛乳、温かい飲物、食後、熱いお風呂、患部を固く押すこと、腹ばいに寝る、休息
- ◀ 暑さ、動き、気候の変化、外気（とくに北東の風）、午前4時と午後4時

RELATIONS

- ・ Antidoted by : Aconite, Chamomilla, Acids, coffee, wine
- ・ Complementary : Bryonia, Arsenicum album, Ipecacuanha, Lycopodium, Sulphur

●主なケシ科のレメディ

Papaveraceae (Poppy) : Opium, Chelidonium majus, Chelidonium glaucum, Chelidonium, Codeinum phosphoricum, Codeinum purum, Codeinum sulfuricum, Apomorphini hydrochloridum, Apomorphinum muriaticum, Argemone mexicana, Argemon aulaga, Cryptopinum, Eschscholtzia californica, Heroinum, Meconinum, Morphinum aceticum, Morphinum muriaticum, Morphinum sulphuricum, Morphine sulphate, Narceinum, Narcotinum pura, Narcotinum aceticum, Narcotinum muriaticum, Papaver rhoeas, Papaver vulgaris, Papaverinum, Sanguinaria canadensis, Sanguinarinum pura, Sanguinarinum nitricum, Sanguinarinum tartaricum, Thebainum